

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市天文台
2 指定管理者	株式会社仙台天文サービス
3 指定期間	平成20年7月1日～令和20年3月31日
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》 令和4年度 120,596人(前年度比 114.3%) 令和3年度 105,526人(前年度比 166.8%) ※新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年4月1日～5月12日、令和3年8月30日～9月12日は臨時休館を実施。令和3年8月20日～8月29日、令和3年9月13日～9月30日までは17時以降の事業を休止。 令和2年度 63,257人(前年度比 34.8%) ※新型コロナウイルス感染症対策のため、各事業は令和2年4月1日～7月4日の期間、中止・休止の対応。令和2年4月11日～5月21日、令和3年3月26日～31日は全館休館を実施。</p> <p>《事業》 天体観測の指導助言及びプラネタリウムによる天体現象の解説、天文科学に関する観測研究並びに資料の収集・保管及び展示、天文科学の普及啓発に関する行事の開催及び刊行物の発行、学校理科教育における天体の観察実習の指導助言等</p>
5 収支の状況	<p>()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 733,249千円(726,566千円) ※PFI事業のサービス購入費施設整備費相当分を含む その他市が負担した費用 1,976千円(1,165千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 観覧料収入 39,624千円(35,930千円) 使用料収入 24千円(26千円)
6 利用者の声	《実施状況》 施設内のアンケート用紙の設置及びウェブサイトにて利用者の声(意見・要望)を把握している。また、寄せられた意見等に関する統計的な分析を行い、施設の維持管理・運営業務の改善に活用している。

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や役割を十分理解した上で、市民の宇宙に関する興味・関心に応え、宇宙・天体に関する知識を深め、様々な体験を提供できるよう、天文台・科学博物館としての更なる質の向上に取り組んでいる。	33/33
II 施設の運営管理体制	各業務に必要とされる資格や専門的な知識を有する職員を適切に配置し、施設の設置目的を踏まえて運営を行っている。また、事故防止や災害発生等の非常時の対応等について、台内ミーティング等を適宜開催し、その場において関係者間で必要な情報共有が図られ、改善策の検討・実施がなされている。また、スタッフサポーター(市民ボランティア)に対しても、スキルアップ等の支援を実施している。	29/29
III 施設・設備の維持管理	施設の一部設備に対応不備等が生じた事例があったが、利用者が快適かつ安心して施設を利用できるよう、建築・設備の保守、清掃、警備等に加え、施設の特徴を十分に考慮し、施設各所の維持管理に努めている。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策(館内消毒・換気等)及び令和4年3月の福島県沖地震の被害設備等に関する復旧作業を進め、復旧可能な設備は早期復旧を図るとともに、15年目大規模修繕工事の施工に際しても、利用者の案内・施設利用時の安全対策が適切に行われている。併せて、ごみの分別や省エネルギー等の環境負荷の低減に資する取り組みを行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	より多くの方々に宇宙を身近に感じ、親しみや興味を持ってもらうため、天文分野にとどまらず様々な分野の関係者とのコラボレーション企画など、利用者増や地域における賑わい創出のための様々な事業を展開している。併せて、独自事業への「仙台MaaS」の適用や、「ミュージアムショップ」や「そらカフェ」などにより、施設利用者の利便性の向上も図っている。また、各イベント情報や天体の観測成果等に加え、プラネタリウムリニューアルオープンの特集掲載などを、広報誌や天文台ウェブサイトをはじめ、YouTube、インスタグラム等の各ソーシャルメディアも積極的に活用し、幅広く事業周知に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	経営の健全性を確保するため、施設運営に関連する各保険への加入など、リスク管理を適切に行うとともに、PFI事業の要求水準を十分理解し、これを達成するために努力している。	10/10

三 評価総括

《指定管理者（株式会社仙台天文サービス）による自己評価》
<p>本年度も、全期間を通じてコロナウイルスへの対応が求められた。臨時休館はなかったが、「COVID19に係る仙台市ガイドライン」の発出に合わせて「再開館運用方針」を策定し運用を継続した。</p> <p>本年度は、15年目大規模修繕実施年度で3か月間のプラネタリウム休止期間があったが、その様な状況下でも、来館者の皆様の御蔭で2022年度の実入館者数は、120,596人（前年度105,526人）、観覧料収入39,649千円（前年度35,919千円）となった。</p> <p>具体的業務の中期計画は、2022年度が最終年度で「宇宙を身近に」を理念に掲げ、「WAをひろげよう」をビジョンに、引き続き市民に親しまれる施設、憩いの施設として、仙台市の「要求水準」を着実に実行するとともに、社会教育・生涯学習施設としての価値を高める施設の運営に取り組んだ。また、施設の使命である、市民が宇宙や天体を通して自然や科学について学べるようにするとの理念に関しては、設備やスタッフの充実とともに発展しており、地元教育研究機関との連携強化により活動の幅が広がっている。天文分野の教育をより専門的、効果的に行う場として、社会教育施設としての利用が高まり天文学の普及啓発に寄与している。更に、各種イベントや毎週土曜日に開催する土佐名誉台長によるトワイライトサロンを通して「にぎわいの創出」を意識した活動を行ってきた。</p> <p>ユーザーの声を聞き、そこから頂いた貴重なご意見、ご要望や改善を届ける「来館者アンケート」では、お客さまからの「声」を基に、随時適切に対応し、併せて、MPSシステムを導入し、お客さまのニーズと達成度を客観的に評価しながら台内会議等で改善事項を共有、確認し、掲示板やWebサイトで公表している。</p> <p>2023年度も市民の方々や来館者のニーズに応える施設となるようスタッフ一丸となって取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和4年度は、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症対策に加え、令和4年3月に発生した福島県沖地震に伴う設備被害の復旧、開台15年目の大規模修繕工事施工の3つの対応案件の影響を十分に考慮しながら、施設運営を展開した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限は実施しなかったが、大規模修繕に伴いプラネタリウムを3か月間（R5年1～3月）休止した影響があり、施設入館者（利用者）数は、前年度との比較で14%の増加（120,596人）にとどまった。施設運営に際しては、市民が安全で快適に施設を利用できるよう、感染症対策や関連工事施工をはじめ様々な観点から有効な対策を検証し、利用者への必要な広報を実施のうえ、それを活かした施設管理・事業運営に努め、指定管理者として適切な運営を行っている。</p> <p>併せて、各事業の実施に際しては、利用者の満足度や利便性の向上のため、利用者アンケートによりニーズの把握に努めながら、既存設備を活用した新しい取り組み、多様な分野の関係者との関連企画や、ミュージアムショップやカフェ等の多様な事業の実施に加え、プラネタリウムリニューアルに関する特集などを、広報誌や各ウェブメディアを駆使しながらより多くの市民等に対して積極的に広報を展開する等、サービス水準向上の取り組みとして十分評価できる内容である。</p> <p>今後も、利用者からの意見や要望、運営上の問題点や事故対応に関して職員会議で共有し、組織的に検討・策定した改善策を実施するという運営サイクルを基本とした体制や、地元大学をはじめとした地域団体等の様々な関係者との連携企画の実施等の取り組みにより、より多くの市民が天文台や天文・宇宙に興味を持ち、快適に利用できる施設環境を構築し、賑わいの創出を図り、天文台事業が更なる向上を遂げることを期待する。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>前年度からの新型コロナウイルス感染症に伴う感染症拡大防止対策に加え、令和4年3月の地震による被害設備の復旧、15年目大規模修繕工事施工の3つの案件への対応が施設運営に係る重要課題となった。対応にあたっては、指定管理者としてのこれまでの経験や実績を踏まえ、施設の維持管理、各設備利用や関連イベント開催時、工事施工の影響などの対応に関して、安全に遂行できるよう常に考慮し、職員間の情報共有・連携を緊密に行いながら、施設運営に努めた。その結果として、大きな事故もなく、円滑な施設運営が展開できた。</p>

© 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部生涯学習課